

Jwima 通信
Japan Writing Instruments
Manufacturers Association

日本筆記具工業会

〒116-0013
東京都荒川区西日暮里2-30-6
TEL03-3891-6161 FAX03-3892-9692
発行：日本筆記具工業会 調査研究広報委員会
URL <http://www.jwima.org>

第13回 通常総会 開催！！

本工業会は5月16日、上野精養軒にて「第13回通常総会」を開催しました。今回は役員改選期ではありませんでしたが、期中に辞任された山内利雄理事の補選が行われ、後任として川頭正和氏（パイロットインキ株）が理事に選任されました。総会・懇親会での会長・副会長のご挨拶要旨を紹介いたします。

＜西村貞一会長 開会挨拶＞

消費税増税から一カ月半経ち、景況も少し落ち着いてきたようです。3月まで景気は良かったのですが、4月に入って第1週は前年比で75%と落ち込み、その後第2週は85%、第3週は95%と、週を追うごとにマイナス幅が減少してきました。特に、量販店、コンビニを合わせた店頭はますますの業績です。6月までの数字を見てみないと正しい判断ができないかと思いますが、現状はこんなところです。JWIMAも皆さんのおかげでスムーズに事業が実行できており、またこの度は副会長であるゼブラ株の石川社長が春の褒章伝達式で藍綬褒章を受章されました。業界としてもとても光栄なことです。今後とも業界発展のため更なるご活躍をご期待申し上げます。



＜小川晃弘副会長 閉会挨拶＞



筆記具統計を見ると、数量が微減し、金額が大幅増になっており、円安効果があったと思います。これからは、民間の力で業界を発展させなくてはならない。そのためには新製品開発が必要で、価格ではなく創造での競争をしていきたい。

＜西村貞一会長 懇親会挨拶＞

H25年は円安によりプラスになりましたが、H26年は円安によりマイナス面が出てくるのではないかと思います。原材料のコストプッシュが表面化しており、それを単価に転嫁できるかありますが、新製品開発で対応するしかないのではないかと思います。アベノミクスにより、モノづくりに支援がありますので、われわれは補助金などの支援を受けながら、モノづくりに努めてはどうかと思います。自社の強みを一層磨いて、新しいものにチャレンジしていきましょう。

＜経済産業省 日用品室 高橋政義室長 祝辞＞



着任してまだ1カ月ですが、ボールペンが輸出産業だと聞いて驚きました。確かに日本のボールペンは、使いやすく、書いていてもインクが途切れることがありません。

日本の筆記具には、このような技術的な高みがあります。また、文字を書く楽しさ、大切さ

などを訴えており、これからもそういう活動をしていただきたい。

＜数原英一郎副会長 乾杯挨拶＞

イノベーションは中国語で創新と言います。これなら改良、改善もイノベーションになり、日本がもっとも得意としている分野です。日本は、筆記具の世界のリーダーであり、これからも新製品開発などにがんばっていきましょう。



【懇親会での歓談風景】



平成26年度 第1・2四半期 委員会・部会 活動報告

＜総務関係＞

3.17 総務委員会（平成25年度第4回）

- ・H25年度決算見通しとH26年度予算案について
- ・国立科学博物館「産業技術史資料」調査協力について

3.28 書育推進協議会 運営委員会

- ・書育フォーラム2013開催報告
- ・長崎大学「育シリーズ」開催報告
- ・H26年2月までの収支状況報告
- ・今後の運営について（意見交換）
- ・その他

4.7 総務委員会（平成26年度第1回）

- ・H25年度事業報告書（案）ならびに収支決算書（案）について
- ・H26年度事業計画（案）及び収支予算（案）について
- ・H26年度第1回理事会開催について
- ・第13回通常総会について
- ・その他

7.4 総務委員会（平成26年度第2回）

- ・秋～年末の行事計画について

- ・国立科学博物館「産業技術史資料」調査協力について
- 7.11 書育推進協議会 運営委員会
 - ・H25 年度事業報告及び決算書類について
 - ・H26 年度事業計画及び収支予算について
 - ・第 5 回通常総会運営について
 - ・第 4 回書育実践賞について
 - ・書育フォーラム 2014 について
 - ・その他
- <調査研究・広報 関係>
 - 3.12 調査研究・広報委員会（平成 25 年度第 5 回）
 - ・世界筆記具統計データの収集について
 - ・その他
 - 6.25 調査研究・広報委員会（平成 26 年度第 1 回）
 - ・世界筆記具統計データの収集について
 - ・その他
- <流通 関係>
 - 2.27 お客様相談窓口連絡会（平成 25 年度第 6 回）
 - ・各社のお客様対応事例について
 - ・「消し具」お役立ち情報について
 - ・その他
 - 4.17 お客様相談窓口連絡会（平成 26 年度第 1 回）
 - ・部会長交代について
 - ・各社のお客様対応事例について
 - ・H26 年度活動テーマについて
 - ・その他
 - 6.19 お客様相談窓口連絡会（平成 26 年度第 2 回）
 - ・各社のお客様対応事例について
 - ・筆記対象物へのマッチングについて
 - ・その他
- <技術国際 関係>
 - 1.17 事務用修正液部会（平成 25 年度第 3 回）
 - ・修正テープ規格化の検討
 - ・その他
 - 1.27 マーキングペン部会（平成 25 年度第 4 回）
 - ・筆ペン業界基準の作成について
 - ・キャップの安全要件について
 - ・遊離ホルムアルデヒドの試験方法について
 - ・その他
 - 2.21 製品安全小委員会（平成 25 年度第 4 回）
 - ・安全関連情報について（配布資料の説明）
 - ・筆記具安全基準について
 - ・その他 情報交換
 - 3.5 シャープペンシル部会（平成 25 年度第 2 回）
 - ・JIS S 6013（シャープペンシル）改正原案作成終了の報告
 - ・一般用シャープペンシルの ISO 規格化について
 - 3.20 技術国際委員会（平成 25 年度第 2 回）
 - ・H25 年度下期各部会活動報告ならびに H26 年度活動計画について
 - ・国際標準提案活動 報告について
 - ・その他
 - 4.8 事務用修正液部会（平成 26 年度第 1 回）
 - ・修正テープ業界基準化の検討
 - ・その他
 - 4.25 マーキングペン部会（平成 26 年度 第 1 回）
 - ・筆ペンの業界基準作成について
 - ・ISO 11540:2014（安全キャップ）の確認について
 - ・ISO 定期見直しについて
 - ・JIS S 6060（キャップの安全要件）見直しについて
 - ・遊離ホルムアルデヒド試験方法の項番変更について
 - 5.26 ボールペン部会（平成 26 年度第 1 回）
 - ・ISO 27668（ゲルインボールペン）定期見直しについて
 - ・その他
 - 5.27 シャープペンシル部会（平成 26 年度第 1 回）
 - ・ISO/TC10/WG18 meeting in London の報告
 - ・「一般用シャープペンシル及びの芯」ISO 化について
 - ・その他
 - 5.28 製品安全小委員会（平成 26 年度第 1 回）
 - ・EWIMA 安全関連情報について
 - ・その他 J-net, SVHC リスト, プロパギエーション 65 など
 - ・各社情報交換
 - 7.28 事務用修正液部会（平成 26 年度第 2 回）
 - ・修正テープ業界基準化の検討
 - ・その他
 - 7.29 製品安全小委員会（平成 26 年度第 2 回）
 - ・安全関連情報について
 - ・各社情報交換
 - ・その他
- <JIS 改正 関係>
 - 2.6 JIS S 6013 改正原案作成分科会（平成 25 年度第 5 回）
- <全文協との共催 関係>
 - 1.31 知財リーダー会議
 - 3.10 合同知的財産部会
 - 4.18 韓国知財セミナー
 - 5.29 知財リーダー会議
 - 7.9 合同知的財産部会
 - 7.10 知的財産権特別セミナー

以上

ISO/TC10/WG18 ロンドン会議 報告

(報告：三菱鉛筆(株) 横浜研究開発センター 課長 中山 協)

本年5月15日に開催されたISO/TC10/WG18 ロンドン会議に、(株)サクラクレパスの塩井氏(convener)とともに三菱鉛筆(株)小野(expert)・中山(expert)が出席しました。また、現地からは英国三菱の多賀谷氏(通訳)にも出席してもらいました。今回の会議はロンドン郊外のBSi(英国規格協会)ビルで行われましたが、英国メンバーは都合つかず欠席でした。出席したのはスウェーデン、フランス、日本の3ヶ国で、国際会議としては少々参加国の少ない会議でしたが、活発な意見交換がなされ、とても有意義な会議となりました。

今回の会議では、日本から新業務項目提案(NWIP)を行う予定の「一般用シャープペンシル及びその芯(Part I および Part II)」について、小野氏から国際規格化の必要性と具体的な規格内容についてプレゼンテーションを行いました。そして、その後出席者と質疑応答をおこないました。ISO 9177 (Mechanical pencils) と重複しないか?などの質問がありましたが、9177で規定している内容は製図用に限定したものであり、今回の提案内容は一般用について定めたものであることを日本が説明を行うことで国際規格化の必要性について理解を得ることが出来ました。さらに、新規格とISO 9177の内容の違いがタ



イトルで判るよう明確にしておくのが望ましいとの前向きなコメントも得られ、新規格として発行される際は、ISO 9177 シリーズもタイトルの変更の検討をすることとなりました。その他にも、品質の規定内容についてバッチ毎の試験が必要かどうか? 試験内容の筆記角度は60°でなければいけないのか?などの質問もあり、これら質問に対しては正式にNWIPとして成立後にじっくりと話し合うこととしました。なお、NWIPの申請は9月の予定です。投票にて承認の条件を得るために、今後日本からTC10参加国への働きかけを行っていきます。

会議ではその他に、前回会議の指摘事項のISO 9177-1の誤記訂正がまだなされていないため再度TC10へ働きかけること、ISO 11540(安全キャップ)の参考文献を次回見直し時には削除すること、ISO 11540および取り下げになった安全尾栓に対するBS規格の対応についてTC10事務局が調査を行うこと、などが決定されました。

また、今回は滞在期間中ずっと晴天が続きました。ロンドンでは非常に珍しいことだそうです(多賀谷氏・談)。「霧の」ではなく「五月晴れ」のロンドンで飲んだビールの味はまた格別に美味かった!

次回は来年5月、東京で開催の予定です。



ISOT 2014

知的財産権特別セミナー 報告

2014. 7. 10 東京ビッグサイト 会議棟 607・608 会議室

本工業会ならびに(一社)全日本文具協会は、ISOT 2014 会期中の7月10日(木)14時から東京ビッグサイト会議棟607・608会議室にて、100名参加のもと知的財産権特別セミナーを開催いたしました。

セミナーは、ゼブラ(株)の秋山守雄知的財産部担当部長の司会で進行が行われ、第1部では、「韓国・中国における模倣品被害の実態と効果的対応」をテーマとして、金&張法律事務所 弁理士の高利化氏と中国国際貿易促進委員会特許法律事務所 弁理士の範立岩氏にそれぞれ両国の実態についてお話をいただきました。

第2部では先の両氏に加えて、創英国際特許法律事務所 副所長・弁理士の黒川朋也氏と山本法律事務所 弁護士の松本幸太氏に講師に加わっていただき、「日本・韓国・中国における商標権の権利解釈」について、実際にあったダイソーVSダサソーの商標権侵害事件を題材にして、日中韓それぞれの商標に対する権利解釈の違いについて解説をいただきました。現実の訴訟では、一審判決は非類似でしたが、二審判決では商標類似と判断が覆り、商標権侵害でダサソ



ー側に賠償金の支払いが命じられました。しかしながら、最新のニュースではダサソー側が上告せず二審判決を受け入れたとの情報が入っており、おそらく両者の間で何らかの水面下での合意があったものと考えられるとのことでした。

JWIMA 2014年 秋～年末の行事計画

1. 会員親睦ゴルフコンペ

日時：平成26年10月1日（水） 8:49 IN スタート（3～4組）
 場所：藤ヶ谷カントリークラブ 常磐自動車道 柏ICより13Km
<http://fujigayacc.co.jp/index.html>
 会費：5,000円（プレー費・昼食代 別途各自精算）



2. 会員研修会

日時：平成26年10月22日（水）13:30～16:40
 場所：ベルmontホテル（浅草橋）
 講座① ソーシャルメディア・クラウド活用術 Part 2（仮題）
 中小企業診断士（株）スプラム代表取締役 竹内幸次氏
 講座② ポールペンの書き心地を科学する（仮題）
 東京理科大学 機械工学科 教授 野口昭治氏
 参加費：研修会は無料（交流会参加の場合は 3,000円）

3. 優良工場見学会

日時：平成26年11月13日（木）
 集合：日暮里・鉛筆会館前 7:30AM



見学先① 独立行政法人 国立印刷局 小田原工場



国立印刷局では、日本銀行券を始めとする証券類、郵便切手及び官報の製造など、国民生活に密着した信頼性の高い製品を製造しています。
 独自の研究開発により築き上げてきた高度な偽造防止技術と、効率的な生産技術の研究・開発及び徹底した製造管理体制で、国民経済にとって必要な製品を安定的かつ確実に提供し、社会の信頼に添えていくことを使命としています。

見学先② アサヒビール 神奈川工場

アサヒビール神奈川工場は、2002年に地球・地域・人との調和を考えた「環境創造工場」として竣工しました。地域の自然環境に調和して工場の敷地面積の50%が緑地であり、緑地を維持管理するとともに最大限に活用して様々な環境保全活動を行なっています。



参加費：10,000円
 （バス代・昼食代・参加記念品代を含む）

4. 年末講演会・懇親会

日時：平成26年12月1日（月）17:00～講演会、18:20～懇親会

場所：上野精養軒

講演テーマ：2023年、産業界はこうなる。

～ 日本企業は何で食っていくのか ～

講師：川口盛之助氏

（株盛之助 代表取締役、日経 BP 未来研究所 アドバイザー）

1961年 兵庫県生まれ。

慶應義塾大学工学部卒、米イリノイ大学理学部修士課程修了。

世界的な戦略コンサルティング・ファームのアーサー・D・リ

トル・ジャパンのアソシエート・ディレクターを経て独立。

【著作物】

- ・オタクで女の子な国のモノづくり（2007 講談社）
- ・世界が絶賛する「メイド・バイ・ジャパン」（2010 ソフトバンククリエイティブ）
- ・メガトレンド2014-2023（2013 日経 BP）

参加費：講演会は無料（懇親会参加の場合は 10,000 円）



お知らせ

■ 国立科学博物館「産業技術史資料」調査協力について

国立科学博物館では、我が国の産業技術史に関する資料のデータベース化を行っており、これまでも 111 の団体と共働して 13,238 件の産業技術史資料の収録・公開がなされています。

（参照：<http://sts.kahaku.go.jp/sts/index.php>）

そして今回は、世界初の製品を次々と世に送り出してきた日本の筆記具産業の技術史資料について、1つのジャンルを設け、収録・公開したいとの申し出をいただきました。

そして5月の理事会でも、日本の優れた筆記具製造、開発技術については、それぞれ各会員企業にたくさんあり、それらをまとめて公開することで業界全体の PR にもなるのではないかと賛同をいただきました。

つきましては、別途会員企業にお送りしました平成26年度「産業技術史資料調査」手順等の説明資料をご確認いただき、調査対象になるものがございましたら1品でも多く調査票を作成いただきますようお願い申し上げます。

【調査対象資料】... 10年以上経過したもの

施設、機械・設備、製品、部品・材料、設計図、模型、複製（レプリカ）、記録映像、特許公報など

【調査票の作成】... 件数は自由

1品1葉で作成。特徴については、100～200字以内となっているが多少の増減は可。

【調査票の提出】

提出はデータでお願いします。（調査票：WORD ファイル、写真：JPEG ファイル）

CD-R等の媒体で JWIMA 事務局へ 9/30（火）までにご提出ください。

【完成予定】

平成27年3月末

2013年の出荷・輸入・輸出 =年間=

繊維・生活用品統計(旧雑貨統計)より (国内向け販売と輸出向け販売を含む)

金額: 百万円

出荷	単位	2013年間		2012年間		前年変動率 (%)	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
ボールペン(油性)	千本	396,665	24,647	402,827	24,023	-1.5	2.6
ボールペン(水性)	千本	1,032,355	43,486	1,029,607	36,215	0.3	20.1
マーキングペン	千本	736,771	35,517	723,513	33,578	1.8	5.8
シャープペンシル	千本	144,456	14,943	145,823	14,342	-0.9	4.2
鉛筆	G	1,662,357	5,738	1,597,672	5,516	4.0	4.0
シャープしん	千本	2,787,393	3,994	2,818,774	3,988	-1.1	0.2
修正液	千本	25,429	2,148	28,693	2,224	-11.4	-3.4
修正テープ	千個	51,062	4,485	55,483	4,742	-8.0	-5.4
クレヨン・パス・水彩絵の具	千本	127,736	3,715	127,863	3,719	-0.1	-0.1
			138,673		128,347		8.0

日本貿易統計より(抜粋)

輸出	単位	2013年間		2012年間		前年変動率 (%)	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
ボールペン(油性)	千本	162,691	6,820	162,794	6,072	-0.1	12.3
ボールペン(水性)	千本	677,445	31,445	708,399	29,039	-4.4	8.3
マーキングペン	千本	325,886	13,936	324,592	12,849	0.4	8.5
シャープペンシル	千本	83,615	5,410	83,375	5,085	0.3	6.4
万年筆・製図用ペン	千本	6,289	1,020	6,890	832	-8.7	22.6
以上のセット品	千個	619	117	559	96	10.7	21.9
黒芯鉛筆	Kg	94,244	276	71,174	214	32.4	29.0
色芯鉛筆	Kg	61,148	223	64,963	239	-5.9	-6.7
修正液	千個	17,919	1,390	19,529	1,344	-8.2	3.4
修正テープ	千個	163	9	354	20	-54.0	-55.0
			60,646		55,790		8.7

日本貿易統計より(抜粋)

輸入	単位	2013年間		2012年間		前年変動率 (%)	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
ボールペン	千本	218,920	7,069	224,822	6,046	-2.6	16.9
マーキングペン	千本	216,230	4,070	199,303	3,304	8.5	23.2
シャープペンシル	千本	44,081	1,735	40,689	1,318	8.3	31.6
万年筆・製図用ペン	千本	2,211	1,395	1,516	1,071	45.8	30.3
セット品	千個	961	64	1,136	47	-15.4	36.2
黒芯鉛筆	Kg	628,795	888	705,382	900	-10.9	-1.3
色芯鉛筆	Kg	1,291,921	1,432	1,232,852	1,105	4.8	29.6
修正液	千個	2,089	56	2,286	52	-8.6	7.7
修正テープ	千個	52,858	2,191	54,273	1,786	-2.6	22.7
			18,900		15,631		20.9

2014年上半期(1~6月) 出荷 速報

出荷	単位	2014年(1~6月)		2013年(1~6月)		前年変動率 (%)	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
ボールペン(油性)	千本	195,471	12,964	191,924	11,966	1.8	8.3
ボールペン(水性)	千本	557,850	24,526	547,382	22,757	1.9	7.8
マーキングペン	千本	382,613	18,166	353,143	16,705	8.3	8.7
シャープペンシル	千本	74,497	8,215	76,881	7,691	-3.1	6.8
鉛筆	G	860,544	3,057	809,628	2,886	6.3	5.9